鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料

福岡管区気象台 地域火山監視・警報センター

〈噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(活火山であることに留意)に引下げ〉 伽藍岳では、7月8日に火山性地震が一時的に増加しましたが、9日以降発生していません。 伽藍岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったことから、本日(27日)11時00分 に噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(活火山であることに留意)に引き下げました。

【防災上の警戒事項等】

鶴見岳・伽藍岳の想定火口域内では、噴気、火山ガス等の噴出が見られますので、注意してください。

〇 活動概況

伽藍岳では、7月8日に山体付近から南東方向にかけての領域を震源とする火山性地震が一時的に 増加しましたが、9日以降発生しておらず、火山性微動の発生もありません。

また、噴気の状況及び地殻変動に特段の変化は認められません。

8日及び22日に実施した現地調査では、伽藍岳の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められず、 伽藍岳の周辺においても新たな噴気や地熱域は認められませんでした。

以上のことから、伽藍岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられます。なお鶴見岳では火山活動に変化は認められません。

鶴見岳・伽藍岳の想定火口域内では、噴気、火山ガス等の噴出が見られますので、注意してください。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大 分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています。

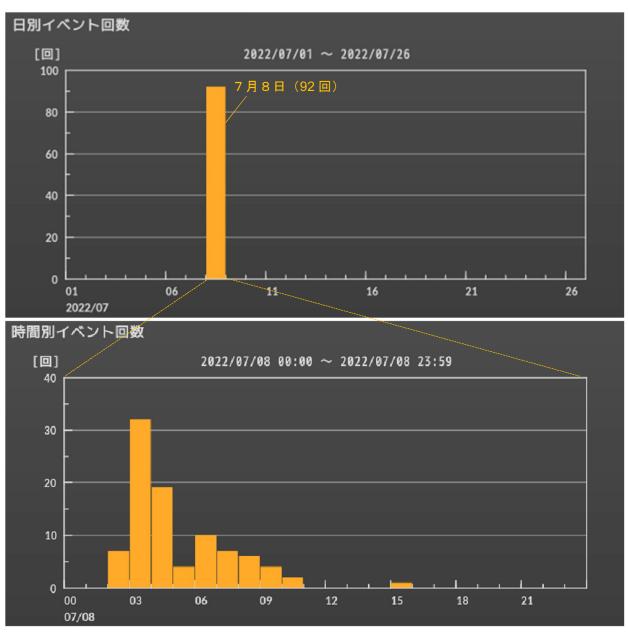
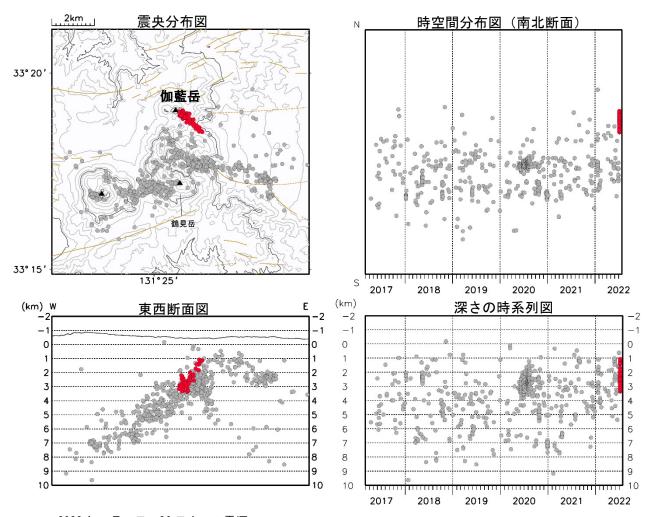


図 1 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳付近の火山性地震の日回数(上段 2022 年 7 月 1 日 ~ 26 日)と時 別回数(下段 7 月 8 日)

伽藍岳付近では、8日に火山性地震が一時的に増加しましたが、9日以降発生していません。



●: 2022 年7月8日~26日までの震源 ●: 2017年3月~2022年7月7日の震源

図 2 鶴見岳·伽藍岳 震源分布図 (2017年3月~2022年7月26日)

伽藍岳では8日に火山性地震が一時的に増加しました。震源は伽藍岳の山体付近から南東方向にかけての領域の深さ1~3kmに分布しました。9日以降、火山性地震は発生していません。

山体周辺及び山体下の深さ10kmまでの地震を表示しています。

近傍の観測点(湯山、日ノ平、内山北尾根、鶴見岳西山麓)において、P波とS波の到達時間差が概ね1秒以内の地震を掲載しています。

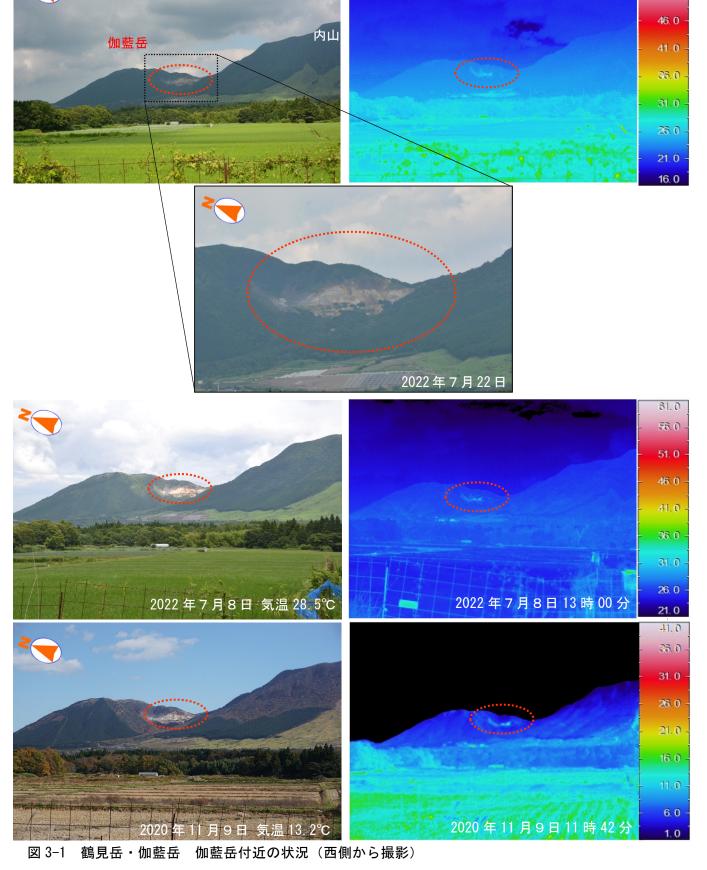
2017年3月24日の鶴見岳西山麓観測点の整備により震源決定の精度が向上しています。

茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

2022年7月22日15時15分

58.0

51.0



- ・伽藍岳の噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・伽藍岳の周辺では新たな噴気や地熱域は認められませんでした。

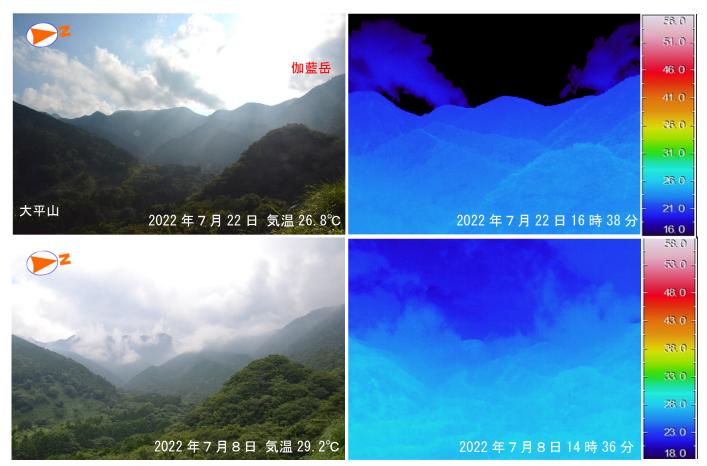


図 3-2 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳付近の状況 (東側から撮影) 伽藍岳の周辺では新たな噴気や地熱域は認められませんでした。

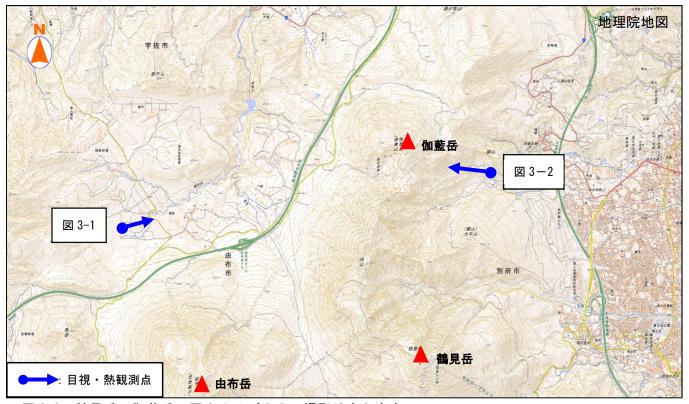


図 3-3 鶴見岳・伽藍岳 図 3-1 及び 3-2 の撮影地点と方向

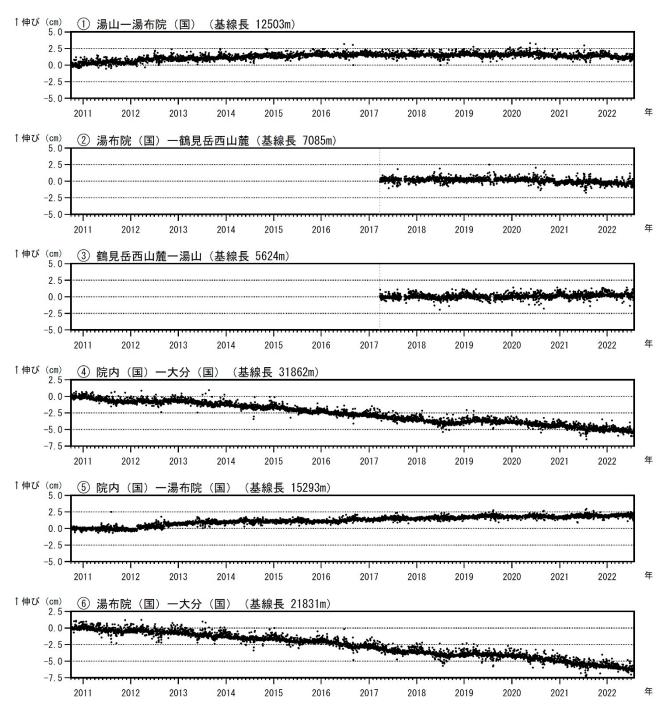


図 4 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月~2022年7月25日) GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図6の①~⑥に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2016年4月16日以降の基線長は、平成28年(2016年)熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

2018 年春頃から 2019 年春頃にかけて、日向灘北部及び豊後水道周辺のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定される地殻変動がみられます(基線④、⑥)。

(国):国土地理院

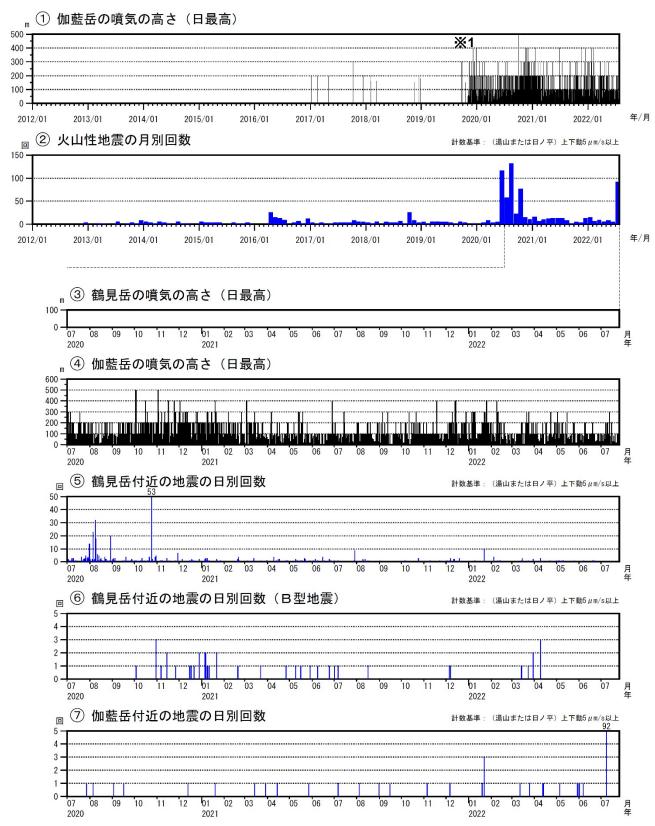


図5 鶴見岳・伽藍岳 火山活動経過図(2012 年 1 月~2022 年 7 月 26 日)

< 7月8日(伽藍岳の地震増加)以降の状況>

- ・塚原無田監視カメラによる観測では、伽藍岳からの噴気は最高で噴気孔上 300mでした。
- ・伽藍岳付近では8日に火山性地震が増加しましたが、9日以降、発生していません。
- ・大分県監視カメラ(石垣)による観測では、鶴見岳からの噴気は認められませんでした。
- ・鶴見岳付近では火山性地震は発生していません。

※1 伽藍岳の噴気の高さは2019年11月より塚原無田監視カメラにより計測しています。

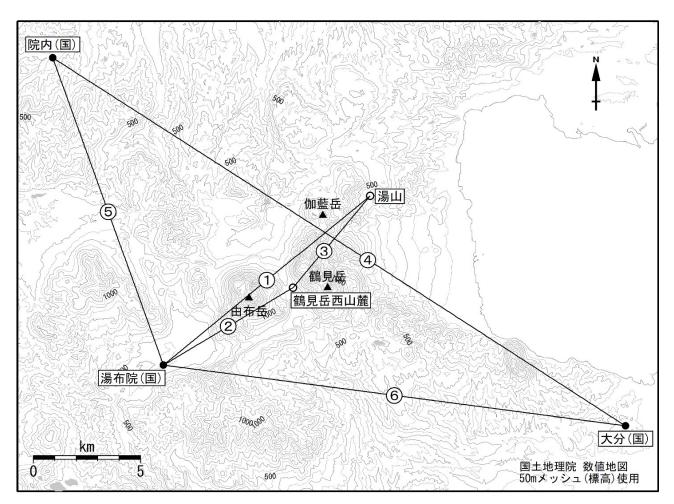


図6 鶴見岳・伽藍岳 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸(○) は気象庁、小さな黒丸(●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。 (国): 国土地理院

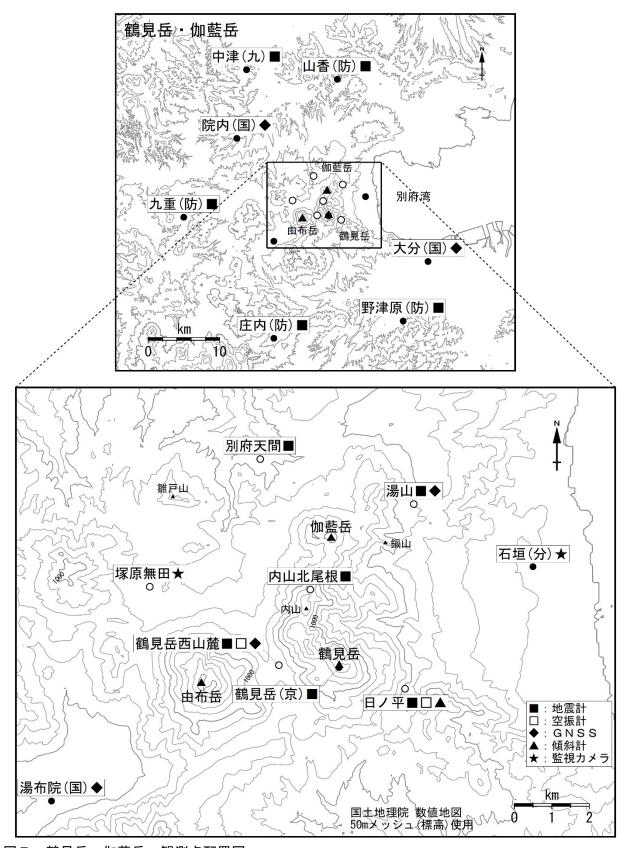


図7 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸(○) は気象庁、小さな黒丸(●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。 (国): 国土地理院、(京): 京都大学、(九): 九州大学、(防): 防災科学技術研究所、(分): 大分県